

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
令和3 (2021) 年度研究開発実施報告書

「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」

研究開発領域

「トラウマへの気づきを高める

“人 - 地域 - 社会” によるケアシステムの構築」

研究代表者氏名 大岡由佳
武庫川女子大学短期大学部 准教授

本研究開発プロジェクトは、当初の研究開発期間後の令和3年4月より「研究開発成果の定着に向けた支援制度」の適用となったため、本報告書は同制度適用期間中（令和3年4月～令和4年3月）の実施内容を報告するものである。

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2－1. 研究開発目標	2
2－2. 実施内容・結果	5
2－3. 会議等の活動	9
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	9
4. 研究開発実施体制	10
5. 研究開発実施者	10
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	12
6－1. シンポジウム等	12
6－2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	12
6－3. 論文発表	14
6－4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	14
6－5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	15
6－6. 知財出願	15

1. 研究開発プロジェクト名

「トラウマへの気づきを高める“人・地域・社会”によるケアシステムの構築」

2. 研究開発実施の具体的内容

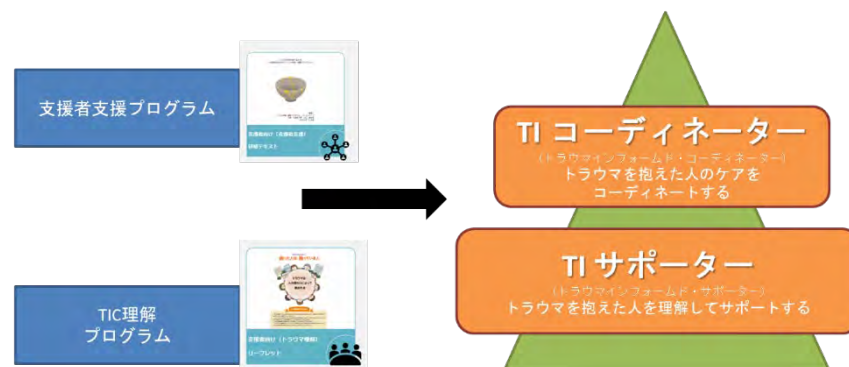
2-1. 研究開発目標

成果定着の枠組み：

過去3か年の研究成果を本開発結果の定着につなげるにあたり、普及しやすい用語として、トラウマインフォームドケアは適切な日本語は現時点では確定できないため、この定着事業を行うにあたり、“こころのケガを癒やすコミュニティ事業”として、成果定着させていく。

トラウマインフォームドケアの実践においては、「①理解する②認識する③対応する④再受傷させない」というプロセスが必要になるが、「①理解する」ことを、個人レベルにとどまらず、地域の人々に広めていくことを共通の課題にできることが、大切な視点になる。そのため、トラウマインフォームドケア/コミュニティ (Trauma Informed Care/Community: 通称TICC) とし、地域づくりの一環であることを強調する形をとった。

研究成果から定着支援へ



協働実施者は、「こころのケガ」を理解して人々に接する『TIサポーター』と、「こころのケガ」と癒す方法論を理解して実質的な実践ができる意識を高めることに寄与する『TIコーディネーター』の育成を定着することで、よりトラウマインフォームドな社会の実現を目指す。それぞれの教材は、研究成果であるTIC理解プログラム、および、支援者向け支援者支援プログラムを中心に、実施者らが今まで生み出してきた知見をもとに行う。TIサポーター養成コンテンツは、オンデマンド教材とし、R4年2月にモニターによる視聴をしてもらい、その感想等を踏まえて修正し、R4年6月に正式公開する。TIコーディネーター養成コンテンツは、オンデマンド教材をR4年秋にモニター視聴をしてもらい、冬に公開予定、その後、ライブ型の定期研修会をZOOM開催する予定である。それにより、社会的に困難を持ったトラウマを有しているであろう様々な人々の問題（犯罪被害、虐待、DV、いじめ、セクハラ等）の軽減につなげる。

なお、現段階では、「トラウマ」は通称「こころのケガ」とし、トラウマインフォーム

ドケアの言葉自体の通称名については、定着支援を進める中で、当事者の意見等を踏まえ、最終的な名を決定していくことを考えていた。しかしながら、この数年でトラウマインフォームドケアの言葉自体が知られるようになってきているため、現時点では通称名の命名はしない。

成果定着の主関係者：

研究代表者の大岡由佳（武庫川女子大学短期大学部）に加え、研究実施者として、養成コンテンツ検討部門・大江美佐里（久留米大学医学部）、柳田多美（元大正大学）、オンライン技術検討部門・肥後有紀子（武庫川女子大学情報メディア学科）・実践普及対策検討部門・大塚淳子（帝京平成大学現代ライフ学部）の協力を得て行う。2019年に実施したTI-MEDコアメンバー研修メンバーであった浅野恭子（大阪府女性相談センター所長）にも協力をしてもらい、現場のニーズに即した教材作成を目指す。オンライン研修養成を考えているが、養成後の着実な知識の社会還元を目指し、TIコーディネーターとして活躍できる地域実践の場の開拓も同時に確保していく。また、そのTIコーディネーター候補に、オンライン研修モニター等を依頼して効果検証をおこなっていく。

成果定着としての地域実践：

TIサポーター・TIコーディネーターの地域実践の場は、児童虐待分野、トラウマ診療、支援者支援、司法現場と協働する犯罪被害者支援連携事業、市民啓発における地域アート実践を想定している。

TIサポーターの関わりによって、自分やその周囲が何かのトラウマとなる出来事に遭遇してしまったとき、どのように接することがこころの応急処置になるかを知っていることで、そのトラウマの影響は低減され、早期に通常の生活に戻っていけるようになる。TIコーディネーターの関わりによって、深刻なトラウマを負った人が、早期にワンストップの支援を受けることで、人を再び信じ新たな人生を歩み直すことができるようになる。

成果定着のための取組拠点：

具体的には、R2年10月に兵庫県立尼崎総合医療センター小児科こども家族支援室に、トラウマインフォームドな視点を伝えるための設立準備委員会を設置した。R3年9月に、尼崎総合医療センター内に設置する設立準備委員会から一般社団法人として実働し始めた。その新たな組織を支える人材として、「TIアドバイザー」を養成し、TIコーディネーターの指導が可能な人材を、この2年で養成する。「TIアドバイザー」のフォローアップとして、定例会議（月1回）を実施し、TIアドバイザーの更新のための要件とする。また、TIコーディネーター等の情報交流の場、ネットワークづくりとして、既存の「Slack」（ビジネス向けのオンラインチャットツール、非営利団体として申請済み）を利用していく。その流れのもと、メルマガの発行やコミュニティイベント開催を行い、連帯を強

地域の育成一地域実践例

・兵庫県立尼崎医療センター

児童虐待予防（病院、学校での実践）
学校TIC普及啓発・支援

・久留米大学病院

トラウマ関連領域の診療を専門とする精神科
支援者支援

・犯罪被害者支援連携事業

（大阪弁護士会犯罪被害者支援委員会弁護士有志、大阪被害者支援アドボカシーセンター、他）
司法現場での犯罪被害者支援の実践

・こころのアート表現プロジェクト事務局

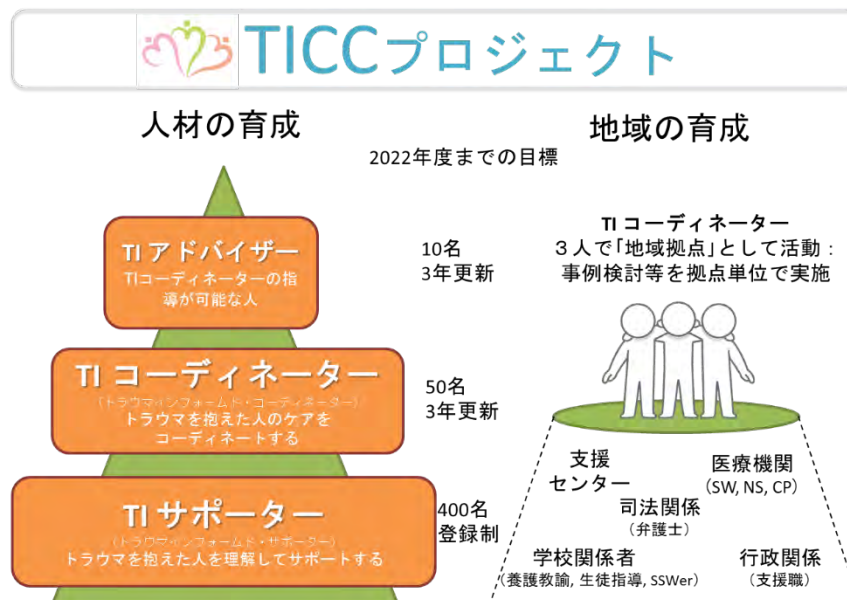
（武庫川女子大学）

市民へのトラウマ普及アート実践

めていく。

成果定着の将来像：

TIサポーター・TIコーディネーター養成と、TIコーディネーターによるTICC実践を手掛けることで、研究開発成果が、市民・支援者の知識定着と、トラウマインフォームドな社会づくりの両輪を支えることになる。1年後（2023年）には、TIサポーター400名、TIコーディネーター50名の登録を見積もっている。TIサポーターは、地方公共団体（市区町村）に1人以上（約2千人）に登録してもらうことが理想であり、それに向けて充実したコンテンツになるべく努力する。そのため、2022年度は無償でオンラインコンテンツの受講ができるように整える。養成コンテンツオープンモニター募集に際し、動画共有サイトやSNS（Twitter、Instagram）の活用も試行的に初めた。



研究開発プロジェクトにおける目標

A. 事業計画の策定

（協働実施者：毎原敏郎）が（研究代表者：大岡由佳）および（研究実施者：大江美佐里、肥後有紀子、大塚淳子）らと協力して、市民を対象とする研修および地域実践を実行する、TICC実践事業計画が策定されていることを目標とする。

具体的には、定着支援期間中に取得した研修コンテンツや地域実践のノウハウに基づき、TIサポーター、TIコーディネーター、およびTIアドバイザーのTICC養成事業の内容が含まれた事業計画である。

- ・ TICC事業コンテンツのオンラインプログラム化
- ・ 地域実践のための体制整備の立案

B. 事業計画の実行のための準備

上記のように策定されたTICC事業計画を実行するための準備として、以下が達成されていることを目標とする。

- ・TICC事業計画を実行できる事務局体制の構築
- ・TICC事業の複数養成プログラムの調整
- ・TICC事業計画を実行できる地域実践の支援者人材の確保
- ・TICC事業計画を実行できる活動資金の獲得、資金繰り計画の確定

2-2. 実施内容・結果

(1) 各実施内容

【2021年度】

A 事業計画の策定

到達点：TICC事業計画の大枠を確定する

実施項目①：TICC事業のオンラインプログラム化

実施時期2021年4月～2022年6月を予定。

具体的にはTI概念に関わる他領域の専門家ヒアリングの実施。オンライン関係者会議を複数回にわたり実施する。

マイルストーン：2022年6月に養成コンテンツ確定を達成していること。

担当者：大岡由佳（武庫川女子大学）

実施項目②：地域実践のための体制整備の立案

実施時期2021年4月～2022年3月を予定。

具体的には、地域実践の場（弁護士、民間支援センター、地方公共団体等）と会議を実施して体制整備・地域拠点の在り方を議論する。

マイルストーン：2022年3月にシステム構築が出来上がり、地域拠点のひな型ができていること。

担当者：大岡由佳（武庫川女子大学）

B 事業計画の実行のための準備

到達点：TICC事業の実施体制を構築する

実施項目③：事業の事務局体制の構築

実施時期2021年4月～2023年3月を予定。

具体的には、中心的に取り組みを行う人材確保のための調整・交渉する。

マイルストーン：2022年10月に一般社団法人および任意団体の役員等が決定していること。

担当者：毎原敏郎（尼崎総合医療センター）

実施項目④：複数養成プログラムの包括化

実施時期2021年6月～2023年1月を予定。

具体的には、複数研修候補のプログラムの一連の流れを確定する。

マイルストーン：2023年1月にオンラインで養成プログラムの包括化が確立していること。

担当者：大岡由佳（武庫川女子大学）

実施項目⑤：地域実践の支援者人材の確保

実施時期2021年4月～2023年3月を予定。

具体的には、地域実践を行うTIコーディネーターの選出・調整する。

マイルストーン：2023年3月に「地域拠点」が10か所以上を目指す。

担当者：大岡由佳（武庫川女子大学）

実施項目⑦：知的財産の整理

実施時期2021年4月～2021年12月を予定。

具体的には、TICCに絡む商標登録を完了すると同時に、コンテンツの知的財産所有を確定する。

マイルストーン：委託終了後の一般社団法人および任意団体に知財がスムーズに移管できるようにする。

担当者：大岡由佳（武庫川女子大学）

（２）成果

【2021年度】

A事業計画の策定

到達点：TICC事業計画の大枠を確定する

実施項目①：TICC事業のオンラインプログラム化（TIサポーター、TIコーディネーター）

成果：TIサポーターのオンラインプログラム化は、2022年2月より100名のモニター、およびアドバイザーボード委員に視聴してもらった。その意見、助言により修正を行い2022年6月に完成させ、一般にコンテンツを提供し始めることになった。オンラインコンテンツ視聴に馴染みのない本邦において、どこまで視聴が伸びるか未知数である。



実施項目②：地域実践のための体制整備の立案

成果：地域実践の場となる関係者（弁護士、民間支援センター、地方公共団体等）らと会議を実施して犯罪被害者支援の体制整備・地域拠点の在り方を議論した。被害者支援連携事業として、福祉専門職が弁護士と連携して被害者をサポートする仕組みを構築した。

その取り組みを推し進めるべく、弁護士については、大阪弁護士会被害者支援委員会と協働して研修会を実施した。また兵庫弁護士会犯罪被害者支援委員会の委員長らと会議を実施して、体制を模索した。民間支援センターについては、ひょうご被害者支援センター、および大阪被害者支援アドボカシーセンターと連携し、専門職と支援センタースタッフの合同研修会を開いて、情報交換、支援の方向性の議論を行った。地方公共団体としては、大阪市、大阪府、堺市等において、



(架空) ケースを通して、連携体制を検討に加わった。大阪府警ともTICCの公的な連携体制構築の打診を行った。

B 事業計画の実行のための準備

到達点：TICC事業の実施体制を構築する

実施項目③：事業の事務局体制の構築

成果：2021年9月中旬に一般社団法人化を行い、役員等が選出された。一般社団法人の住所を置く兵庫県立尼崎総合医療センター内では、一般社団法人としての定着のための実践研究が実施しづらいことがあり、2022年4月より、委託研究契約を一般社団法人T I C C で結び、更なるT I C C 事業の実施体制の強化を図っていく。

実施項目④：複数養成プログラムの包括化

成果：T I C C 独自に作成していく研修コンテンツに加え、研究代表者がもつ科研費研究成果の融合を図ることで、複数養成プログラムの包括化を図った。研究期間内に、知財の整理を行い、プログラム運用を一般社団法人T I C C が一括で行うことができるように整理する必要がある。

実施項目⑤：地域実践の支援者人材の確保

成果：地域の被害者支援を行う支援者を確保すべく、研修会や講演時を利用し、T I C C 事業についてPRを行ってきた。第2水曜日に被害者支援連携事業会議が行われているが、新しく参加者が加わり、多職種でケース検討ができることが支援者の魅力となり、今後の人材確保につながっていく様子である。コロナ禍により対面実施ができないために、地域拠点の整備は遅延しているが、2022年4月に被害者支援連携事業の大規模研修を予定しており、裾野を広げる予定である。

実施項目⑦：知的財産の整理

成果：2018-2021年にかけて作成してきたパンフレット等の知財について、武庫川女子大学から一般社団法人T I C C へ知財の移管を進めた。

(3) スケジュール

実施項目		研究開発期間						
		2021年度 2021.4～2022.3	2022年度 2022.4～2023.3	事後評価期間 2023.1～2023.3				
A 事業 計画 の 策	実施項目①養成事業コンテンツの オンラインプログラム化		→ マイルストーン					
	実施項目②地域実践のための体制 整備の立案	→ マイルストーン						
B 事業 計画 の 実 行 の た め の 準 備	実施項目③事務局体制の構築		→ マイルストーン					
	実施項目④複数養成プログラムの 意匠化	→	→ マイルストーン					
	実施項目⑤地域実践の支援者人材 の確保	→	→ マイルストーン					
	実施項目⑥活動資金の獲得、資金 繰り計画の確定		→ マイルストーン					
	実施項目⑦知的財産の整理	→	→ マイルストーン					
(内部) ガ バ ナ ン ス ボ ー ド		○ ◎ ● ○ ◎ ● ○ ◎ ● ○ ◎ ★ ●	○ ◎ ● ○ ◎ ● ○ ◎ ● ○ ◎ ● ★ ○ ◎ ● ◎ ★ ●					
R i s t e (x)	戦略会議（		22年1月 1回目	22年7月 2回目	22年3月 3回目	22年7月 4回目	22年11月 5回目	

○事務局会議 ◎被害者支援連携事業会議 ●コンテンツ検討会議 ★アドバイザーボード

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

- ・コロナ禍という非日常の慢性化で、当事者を支援する専門職が疲弊しており、被害者支援まで関心をもつていただくことが難しい情勢になっていると感じている。学校へのＴＩＣ普及なども、学校側のクラスター等で延期になるなど、展開定着部分で足踏み状態となっている。
- ・社会的意義のある事業展開を行っており、今後に持続可能な事業をどのように展開するか次年度に更なる検討が必要となっている。
- ・コロナ禍のなか、対面で研修等を行うことができず、強力な人の輪が広がっていかないこ

とが課題となっている。

2-3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
第1水曜日 (毎月)	事務局会議	兵庫県立尼崎総合医療センター (対面開催)	事務局関係者にて、事業全体の進め方について、検討。6名程度。
第2水曜日 (毎月)	被害者支援連携事業会議	兵庫県立尼崎総合医療センター (ハイブリッド開催)	弁護士、小児科医、精神科医、MSW、PSW、SSW、相談支援専門員等で、事業の進め方や、ケース検討。15名程度。
第3水曜日 (毎月)	コンテンツ検討会議	兵庫県立尼崎総合医療センター (ハイブリッド開催)	精神科医、小児科医、臨床心理士、MSW、PSW、大学教員等で、オンラインコンテンツの検討。10名程度。
2022年1月8日	被害者支援連携事業、拡大会議	大阪被害者支援アドボカシーセンター	民間支援センターのスタッフと、TICC被害者支援連携事業の専門職の合同研修を行い、被害者支援の課題を共有した。30名程度。
2022年3月18日・30日	アドバイザーボード	兵庫県立尼崎総合医療センター (ハイブリッド開催)	事業運営、オンラインコンテンツに対しての、アドバイザー委員(※)からの助言。

※ 委員は、以下のとおり。

1. 亀岡 智美 先生「兵庫県こころのケアセンター 副センター長兼研究部長」
2. 山本 千尋 先生「日本小児科学会認定小児科専門医 認定小児科指導医 子どもの心相談医」
3. 西 大輔 先生「東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野・教授」
4. 佐々木 達也 先生「武庫川女子大学 経営学部 経営学科 教授」
5. 鴻巣 たか子 様「犯罪被害者団体ネットワーク運営委員会 被害者が創る条例研究会世話人」
6. 中村 舞斗 様「NPO法人虐待どっとネット 代表理事」

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

1) 被害者支援連携事業の展開

弁護士とソーシャルワーカーが連携して被害者支援を行った。被害種別は様々で、性被害、いじめ、虐待、監禁、DV等、様々な被害を負い、十分に被害者支援が得られていない被害者の支援を地域機関と連携しながら行った。複雑な事例が多く、中長期的な視点が求められる

ていることが明らかになった。

2) オンラインコンテンツの活用

1. オンライン上配信

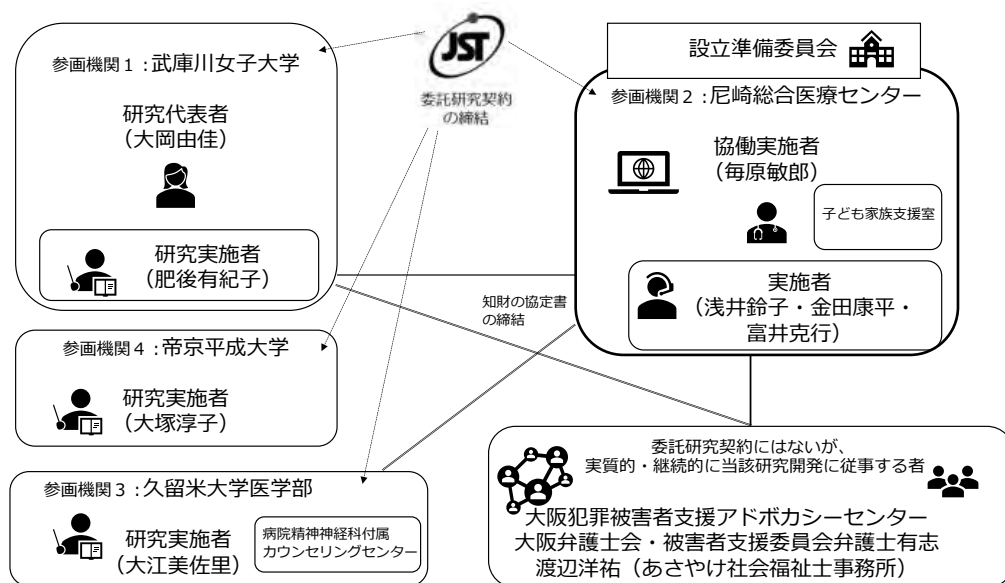
2021年度は、市民に広くTIサポーターのオンラインコンテンツのモニター募集を行い、100名に公開した。

2. コンテンツの活用展開

今まで研究を進めてきたT I C研究の知見や、オンラインコンテンツを利用し、以下の場所で研修を行った。

- A 児童相談所
- B 県児童養護施設合同研修会
- C 府社会福祉協議会主催の研修会
- D 精神保健福祉センターの研修会 等

4. 研究開発実施体制



5. 研究開発実施者

武庫川学院

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
大岡 由佳	オオオカ ユウカ	武庫川女子大学 短期大学部	心理・人間 関係学科	准教授

肥後 有紀子	ヒゴ ユキコ	武庫川女子大学	生活環境学部 情報メディア 学科	准教授
--------	--------	---------	------------------------	-----

兵庫県立尼崎総合医療センター

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
毎原 敏郎	マイハラ トシロウ	兵庫県立尼崎総合医療センター	小児科	部長
浅井 鈴子	アサイ レイコ	兵庫県立尼崎総合医療センター	小児科	MSW
金田 康平	カネタ コウヘイ	兵庫県立尼崎総合医療センター	小児科	MSW
富井 克行	トミイ カツユキ	兵庫県立尼崎総合医療センター	小児科	事務長

久留米大学医学部

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
大江 美佐里	オオエ ミサリ	久留米大学医学部	神経精神医学講座	准教授
石田 哲也	イシダ テツヤ	久留米大学医学部	神経精神医学講座	助教

平成帝京大学

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
大塚 淳子	オオツカ アツコ	平成帝京大学	現代ライフ学部	教授

個人での参加

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
柳田 多美	ヤナギタ タミ	一般社団法人 TICC	研究部	研究員
浅野 恭子	アサノ キョウコ	大阪府	女性相談センター	所長

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
R4年2月25日	第1回 トraumainフォームドケア企画研修	オンライン	約80名	全国精神保健福祉連絡協議会との共同開催。全国の精神保健福祉協会、全国の精神保健福祉センター等において、研修や講演会を企画するための研修を開催し、Traumainフォームドケアの普及を図った。

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍・冊子等出版物、DVD等

- ・大江美佐里「はじめに、第1,2,3,5,8,10,12章」大江美佐里編『トラウマの伝え方:事例でみる心理教育実践』誠信書房.2021年.1-147.
- ・大岡由佳「第13章 支援者支援: Traumainフォームドケア理解の心理教育」大江美佐里編『トラウマの伝え方:事例でみる心理教育実践』誠信書房.2021年148-158.
- ・大岡由佳「支援体制が不十分な自治体の被害者窓口」『すべてのまちに被害者条例を 第3版』（監修：諸澤英道）の一部執筆。被害者が創る条例研究会.2020年,p30.
- ・大岡由佳「犯罪被害者等の支援」『現代の精神保健の課題と支援』社会福祉士・精神保健福祉士養成講座。一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集（分担執筆）中央法規。2021年,p129-134.
- ・大岡由佳「犯罪被害者等支援に関する制度の概要」『刑事司法と福祉』社会福祉士・精神保健福祉士養成講座。一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集（分担執筆）中央法規。2021年,p229-250.（TICの知見について盛り込んだ）

(2) ウェブメディアの開設・運営

- ・TICCのHPの開設 <https://www.jtraumainformed-tic.com/> 2021年7月8日立ち上げ
- ・TICCのInstagram:アカウント:jtraumainfomed 2021年12月7日立ち上げ
- ・TICCのTwitter:アカウント:jtraumainfomed 2021年12月8日立ち上げ

(3) 学会（6-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・毎原敏郎。診療所における子ども虐待対応の手引き。令和3年度姫路市医師会児童虐待防止対策研修会(姫路市)。2021.11.4.
- ・毎原敏郎。虐待の気づきのポイントと関係機関連携 子どもの発育発達、体重増加不良。令和3年度大阪府内保健師児童虐待予防研修(大阪市)。2022.2.16.
- ・毎原敏郎。事例を通してTICの視点を学ぶ。京都府児童福祉施設連絡協議会京都府社会福祉協議会京都府福祉人材・研修センター 令和3年度 児童福祉施設職員研修(on line)。2022.2.18.

- ・ 毎原敏郎. 事例を通してTICの視点を学ぶ. 令和3年度千葉県基幹的職員研修児童福祉施設(on line). 2022.3.1.
- ・ 毎原敏郎. 子育て世代と子どもの現状～虐待0,1次予防の観点から～. 兵庫県立大学地域ケア開発研究所周産期ケア研究センター令和3年度子育て支援者研修 これからの産後ケア・子育て支援を考える(on line). 2022.3.5.
- ・ 毎原敏郎. 子どもの発達と児童虐待の影響 子どもの諸問題. 西日本こども研修センターあかし児童相談所児童福祉司スーパーバイザー義務研修(明石市). 2022.3.11.
- ・ 大岡由佳. 「トラウマインフォームドケアの視点から」. 令和3年度若者のこころに寄り添う支援者研修会. 京都市精神保健福祉センター主催研修.2021.12.10.(on line)
- ・ 大岡由佳 「心のケア相談研修」 日本精神保健福祉士協会主催研修. 2021.10.28, 2021.11.16(online)
- ・ 大岡由佳「児童支援に活用したいTICの視点」京都府児童福祉施設連絡協議会京都府社会福祉協議会京都府福祉人材・研修センター 令和3年度 児童福祉施設職員研修(on line). 2022.2.18.
- ・ 大岡由佳「犯罪被害者支援における多機関連携-トラウマインフォームドケアの視点から」青森県犯罪被害者等支援担当職員研修会. (むつ会場分2021.11.4,八戸会場分11.4, 弘前会場分11.8,青森会場分11.9) (ハイブリッド開催、分散研修)
- ・ 大岡由佳「犯罪被害者支援」国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター主催.令和3年度PTSD対策専門研修 C.犯罪・性犯罪被害者コース. 2022. 2.9-10. (on line)
- ・ 大岡由佳「犯罪被害者支援」国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター主催. 令和3年度PTSD対策専門研修B.専門コース1. 2021.10.29, 2021.11.19. (online)
- ・ 大岡由佳「トラウマインフォームドケア」.神戸市DVセンター主催.DV被害者支援関係機関担当者向け合同研修会.2021.12.5 (あすてっぷ神戸).
- ・ 大岡由佳「精神科領域におけるトラウマインフォームドケアを学ぶ」大阪府こころの健康総合センター主催. 令和3年度地域課題の取り組みに関する研修.2022.2.22. (大阪府こころの健康総合センター) .(ハイブリッド開催)
- ・ 大岡由佳「子どもの支援—トラウマインフォームドケアの視点から考える」尼崎市こども青少年局子どもの育ち支援センター主催. 2021.12.23. (尼崎市いくしあ) .
- ・ 大岡由佳「トラウマインフォームドケア (TIC) から読み解く自殺予防」大阪精神保健福祉士協会主催研修.2021.10.9.(on line)
- ・ 大岡由佳「トラウマインフォームドケア (TIC) の視点から考える支援」尼崎市教育委員会主催.令和3年度不登校対策に係る教員向け研修会.2022.3.1.(尼崎市教育センター).
- ・ 大岡由佳「トラウマインフォームドケア—トラウマインフォームドなアプローチ6つの原則から.「日常臨床でのトラウマインフォームドケア」日本トラウマティックストレス学会.プレコンgres. 2021.7.16. (on line)
- ・ 大岡由佳「支援者のトラウマとセルフケア」 TIC第2弾研修会1回目.日本精神保健福祉士協会主催刑事司法精神保健福祉委員会主催.2022.2.12.(on line)
- ・ 大岡由佳「民間支援団体における性犯罪・性暴力被害者支援の取組とつなぎ支援に向けた連携のあり方」男女共同参画局 男女間暴力対策課主催 行政職員研修、センター長・コーディネーター研修.2022.2.15. (on line)
- ・ 大岡由佳、西大輔「TIC企画立案をする際のヒント」全国精神保健福祉連絡協議会主催. 第1回トラウマインフォームドケア企画研修.2022.2.25. (on line)

6-3. 論文発表

(1) 査読付き (5 件)

●国内誌 (5 件)

- ・大岡由佳：絵という媒体を通じて見えてきた精神障害をもつ人々のトラウマートラウマインフォームドケアの実践活動から—人間学研究33,2021:22-31.
- ・大岡由佳：TIC実践—絵という媒体を通して見えてくる精神障害者のトラウマ．精神保健福祉．Vol52No1.通巻124号.2021:3.
- ・大岡由佳，岩切昌宏，瀧野揚三，浅井鈴子，毎原敏郎：絵という表現活動を通して見えてくる子ども時代のトラウマートラウマインフォームドケアの実践—学校安全推進センター紀要 1, 2021:43-54.
- ・大岡由佳：TIC実践としてのアート展—トラウマ理解・普及啓発の挑戦．精神保健福祉．vol53.No1.通巻128号．2022:58.
- ・大岡由佳，肥後有紀子，岩切昌宏：逆境的小児期体験の影響—成人2事例の語りから．学校安全推進センター紀要 第2巻.2022:46-55.

●国際誌 (0 件)

(2) 査読なし (5 件)

- ・大岡由佳：ソーシャルサポートと複雑性PTSD(特集 複雑性PTSDと接する：さまざまな治療的アプローチ)．精神療法 47 (5), 2021:632-634.
- ・大岡由佳：犯罪被害者等支援と福祉連携．精神科Resident.Vol3.No.2.2022.2-3.
- ・大岡由佳：第1回 トラウマインフォームドケア (TIC) 概論.連載タイトル：トラウマインフォームドケア特集—トラウマレンズをかけていますか？.) PSW通信 第230号, 2021:2-3.
- ・大岡由佳・柏木一慧．第2回 トラウマインフォームドケア (TIC) —精神医療編.連載タイトル：トラウマインフォームドケア特集—トラウマレンズをかけていますか？. PSW通信 第231号, 2021: 2-3.
- ・大岡由佳：ソーシャルワーク領域におけるトラウマインフォームドケアの実践.科学評論社『精神科』2022:印刷中.

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議 2 件、国際会議 0 件)

- ・毎原敏郎，虐待臨床の倫理と心理．第35回近畿小児科学会教育講演(大阪市)．2022.2.27.
- ・大岡由佳：ソーシャルワーク領域におけるTIC実践の一例「トラウマインフォームドケアとその展開」．第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会．(on line) 2021.7.9.

(2) 口頭発表 (国内会議 3 件、国際会議 1 件)

- ・Yuuka Ooka: Sharing Perspectives Connecting Perpetrators and Victims-Trauma Informed Care. The 12th Annual Conference of the Asian Criminological Society (ACS2020).2021.6.18-30.

- ・大岡由佳：犯罪被害者支援の必要性ー加害者支援の対にある被害者支援への福祉専門職の関与に向けての教育の在り方ー．日本社会福祉学会 第69回秋季大会.2021.9.12.
- ・大岡 由佳、角野太一、高濱浩子、毎原敏郎、井上美智子、浅井鈴子：地域における絵を媒体としたTIC実践/普及啓発の試み．（トラウマインフォームドケア～わが国における実践と展開～）．シンポジウム S-13-3.日本トラウマティックストレス学会.2021.5.30-31.
- ・大岡由佳：メンタルヘルス啓発教育の挑戦．一般市民を対象にした TIC 実践：展覧会「トラウマ展」．第20 回日本精神保健福祉士学会学術集会 2A-①. 2021.10.11.

(3) ポスター発表（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

6－5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿（ 7 件）

（新聞）

- ・2021年7月18日 日本経済新聞 「犯罪被害ケアなお途上」犯罪被害者の経済的支援や被害者対応についてのコメント。
- ・2021年11月20日 東京新聞 「登戸事件「支援の対象外」ー必要な支援 対応を」被害者についてや、犯罪被害者支援と条例についてのコメント。
- ・2022年1月14日朝刊 読売新聞 「性被害相談 24時間対応」性暴力被害者や、ワンストップ支援センターの現状についてのコメント。
- ・2022年1月15日 日本経済新聞 京都アニメーションの事件の被害者対応についてのコメント。

（TV報道）

- ・2021年11月中旬放送 NHK広島放送局 TICとその現場での取り組みの広がりを伝える内容とコメント。

（その他）

- ・MiZi通信 8－9月号（2021.7.23発行）尼崎版「尼崎からくる人びと」トラウマやTICC事業についてのコメント。
- ・大岡由佳：犯罪被害者の人権．ひょうご人権ジャーナルきずな.11月号.2021,p6.

(2) 受賞（ 0 件）

(3) その他（ 1 件）

- ・映画「いのち見つめて 高次脳機能障害と現代社会」（2022年製作／70分／日本 配給：パンドラ）のドキュメンタリー映画に専門家として出演し、トラウマやそのケア（トラウマインフォームドケア）についてコメントしている情景を取り上げられた。

<https://inochikoujinou.wixsite.com/inochi>

6－6. 知財出願

(1) 国内出願（ 2 件）※商標

(2) 海外出願（ 0 件）